

軽費老人ホーム二期一会荘 全国老人福祉施設協議会より表彰



▲小林江里さん・廣江直樹さん



憩いの四季・娯楽室で、毎月第1

金曜日に開催される「くぐり大学」。

今回は、軽費老人ホーム「二期一会荘」生活相談員の廣江直樹さんを講師として迎え、自宅でもできる簡単「ながら体操」がおこなわれ、頭と身体を同時に使いながら、自宅でも簡単にできる体操を学びました。

まず、声を出しながらグー・チョキ・パーの動作や、左右対称の足踏み運動で体を温めた後、ラップの芯を使った全身運動や、普段あまり動かさない部分を意識した体操など、徐々に難しい動作へとステップアップ。運動と脳トレを組み合わせたプログラムに、参加者は熱心に取り組んでいました。

今回の講師を務めた軽費老人ホーム二期一会荘は、「さくら大学」のほかにも、「老人クラブ」への介護予防の出席講座や、コロナ禍前まで実施していた夏まつりに代わる新たなイベント「二期一会の仲間ルシェ」など、地域とのつながりを深める取り組みを続けています。

こうした活動が評価され、「全国老人福祉施設協議会」から表彰を受けました。

3/7
金

健康推進員 活動報告会



第12期 健康推進員が2年間の任期を終え、活動報告会を開きました。

健康推進員は、自身の健康から地域住民の健康づくりを推進する活動をしており、年間をとおして生活習慣病や運動講座などの研修を受講し、地域での健康づくり活動に活かしてきました。

行政区ごとに、年間計画を決め、健康体操や日帰り旅行など健康だけでなく住民同士のつながりを深める場として、多くの方が参加しました。報告会では、活動内容や成果の発表をして2年間を振り返りました。

3/21
金

多文化共生体験フェスティバル



憩いの四季娯楽室にて、多文化共生体験フェスティバル(通称 たぶフェス)を開催しました。

やさしい日本語劇団のコントから始まり、習字やバンブーダンス、ポンデケージョなどお互いの国の遊びや料理を食べることで、日本人と外国人の相互理解の促進を図りました。「マンカラを初めてやった。頭を使って面白かった(日本人)」「もっと難しい折り紙をやりたい(ベトナム人)」など、参加者から多くの笑みがこぼれていました。

3/16
日



卒園記念で遊覧船乗船

役場近くの五条川で、桜の開花時期に合わせて運行が始まる遊覧船に、3月に卒園する町内の幼稚園（2園）と保育園（4園）の園児たちが、一足早く乗船しました。

桜のつぼみはまだ硬く、開花はもう少し先でしたが、園児たちは、花見橋で順番を待つ友だちに笑顔で手を振り、川辺に咲きたんぽを眺めながら遊覧を楽しみました。

3 / 5.12
水 水



フレイル予防のお話とかんたん椅子ヨガ

さつきヶ丘防災センターで、大口町中地域自治組織主催「フレイル予防のお話とかんたん椅子ヨガ」が開かれ、37名が参加しました。

前半は、健康課の保健師からフレイルについての基礎知識や予防などを学びました。

後半は、講師の社本さんを迎え、無理なくフレイルも予防できる「椅子に座ったままできるヨガ」を体験しました。参加者からは、「これなら毎日でもやれそう」「家で実践したい」「座って無理なく、しっかりと体を動かせば温まった」などの感想が聞かれました。

2 / 21
金



大口町さくらまつり2025

3月20日（木）から4月15日（火）まで、大口町さくらまつりが催され、遊覧船や五条川桜と菜の花畑のライトアップ、にぎわい横丁など多くの人で賑わいました。

3月29日（土）に、花見橋南特設会場でおこなわれた新能では、堀尾金助にまつわる物語「裁断橋」が上演されました。

咲き始めの桜がライトアップされ、特設の能舞台が闇夜に浮かび上がり、幻想的な雰囲気が出ました。上演が始まると、鼓や笛の音が響き渡り、歴史と幻想が交錯する幽玄の美が見事に表現されました。

同日、画家・奥山優さんによる絵画の寄贈式もおこなわれました。

奥山さんは小牧市にお住まいで、重度の知的障がいがありながらも、動物をモチーフにした絵を幼い頃から描かれています。独特な色遣いと世界観が魅力で、「第10回 あいちアール・ブリュット展」での優秀賞をはじめとした、多くの賞を受賞されています。

寄贈された絵画のテーマは「桜のまち 大口町」。夜空に浮かぶ月から桜が誕生し、そして散っていくという、はかなくも美しく咲き誇る桜の姿をイメージしながら、心を込めて描いてくださいました。



絆が力に 名古屋シティマラソン2位

3/9 日

昨年の愛知駅伝で大口町代表として第6区（一般女子・町村の部）を走り、区間賞を受賞した原田采奈さん



ん（オークマ株式会社）が、今年3月9日に開催された名古屋シティマラソンに出場し、日本人トップの2位に輝きました。この結果を受け、名古屋市からシドニーマラソンへ派遣される予定です。

新聞に「大口町 原田采奈」としてインタビューを受けた原田さん。「大口町は人が温かいまち。他の町に住んでいますが、このまちが好きで思わず『大口町』といっ

てしまいました（笑）」と笑顔を見せ、大口町への愛着を語ってくれました。

原田さんは、昨年の駅伝とともに練習した監督や選手たち、そしてオークマ温水プールで出会った仲間の存在を励みに、レース中も「この人に報告したい」など、応援してくれる人たちの顔を浮かべながら頑張れたといいます。「仲間にも恵まれ、幸せだと気付けた」と話しました。

現在は週6日、会社出勤前の朝ランニングと、退勤後のトレーニングに取り組むストイックな生活を続け、次なる挑戦へと歩みを進めています。



おおぐち光燈路



▲ 152 基の燈路が並べられました

3月31日（月）から4月6日（日）まで堀尾跡公園で、おおぐち光燈路が催され、夜桜を楽しむ家族連れなどで賑わいました。

姉妹都市の島根県松江市松江城周辺で、毎年10月に行灯を並べて松江の夜を飾る「松江水燈路」が開催されています。大口町でもその素晴らしさを伝えたいと大口町NPO団体「チームGOGO大口」が、皆さんから作品を募り、桜の開花時期に合わせ「おおぐち光燈路」を開催しています。

菜の花畑にマーガレット

3/30 日

毎年たくさんの菜の花が咲き、五条川堤の桜とともに楽しめるお花見スポット（大口町コミュニティワークセンター東側）に、マーガレットを植えました。

大口園芸やボランティアの皆さんに加え、名古屋経済大学の学生や誠信高等学校の生徒の皆さんのご協力により、2000株を植えることができました。マーガレットが加わったことで、大口町さくらまつりの期間中、多くの来場者に美しい景色を楽しんでいただけました。

